

# Cisco UCS Director リリース ノート、リリース 5.4

初版 : 2015 年 11 月 05 日

最終更新 : 2015 年 11 月 09 日

## Cisco UCS Director

Cisco UCS Director は、サポート対象のコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、仮想化プラットフォーム、および Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) と Cisco Nexus プラットフォームに基づいた業界をリードするコンバージドインフラストラクチャソリューションに対し、統一され安全性に優れた管理を提供します。Cisco UCS Director は Cisco UCS を通じてコンピューティングレイヤやネットワークレイヤの統合を拡張し、コンピューティング、ネットワーク、ストレージ、および仮想化の包括的な可視性と管理機能をデータセンターの管理者に提供します。詳細については、[Cisco.com](http://Cisco.com) で [Cisco UCS Director](#) を参照してください。

## マニュアルの変更履歴

リリース	日付 (Date)	説明
5.4	2015年11月5日	Cisco UCS Director リリース 5.4 のリリース ノートを作成
5.4	2015年11月5日	OVF および VHD の zip ファイルの圧縮に関する追加情報およびそれらの圧縮解除に関する推奨事項。
5.4	2015年11月6日	新機能および変更された項に関する項を更新。
5.4	2015年11月9日	OVF および VHD の zip ファイルの圧縮に関する更新情報およびそれらの圧縮解除に関する推奨事項。

## システム要件

[Cisco UCS Director のインストールおよびアップグレードガイド](#)に、このリリースの以下に関するシステム要件が記載されています。

- VMware vSphere
- Microsoft Hyper-V

### サポートするブラウザバージョン

Cisco UCS Director は、以下のブラウザをサポートしています。これらのブラウザには、Adobe Flash Player 11 プラグインが必要です。

- Internet Explorer 8 以降
- Google Chrome 4.1 以降
- Firefox 3.5 以降
- Safari 4.0 以降（Apple Mac または Microsoft Windows の場合）

いずれのブラウザにしても Adobe Flash Player プラグイン バージョン 11 以降がインストールされている必要があります。

## インストールおよびアップグレードに関する注意事項

Cisco UCS Director は、VMware には OVF 形式、Microsoft Hyper-V には VHD 形式で提供される標準の仮想マシンを使用します。VMware vSphere または vCenter、あるいは Microsoft Hyper-V Manager でホストできます。インストール手順については、該当する [Cisco UCS Director のインストールおよびアップグレードガイド](#)を参照してください。



- 
- (注) zip 3.x を CentOS 6.x で使用して Cisco UCS Director 5.4 OVF と VHD の zip ファイルが作成されます。Linux システムの場合は、unzip 6.x 以降または最新バージョンの 7-Zip アーカイブ ツールを使用して zip ファイルを抽出できます。Windows システムの場合、Windows 10 および Windows Server 2012 では Windows Explorer のネイティブの Extract All、または 7-Zip や WinRAR などの最新バージョンのアーカイブ ツールを使用して zip ファイルを抽出できます。
-



(注) アップグレードパッチを適用して、そのインストールを完了した後、ShellAdmin の [サービスの開始 (Start Services) ] オプションを選択し、Cisco UCS Director サービスを開始/再開して、パッチ プロセスを完了します。サービスが開始し、Cisco UCS Director が使用可能になり、ログイン画面が表示され、管理ユーザが UCSD にログインできるまで、パッチ プロセスは完了または成功しません。

追加パッチの適用、データベースのバックアップ、バックアップからのデータベース復元など、すべての Cisco UCS Director サービスは他の ShellAdmin プロシージャを実行する前に停止する必要があります。

## Cisco UCS Director リリース 5.4 へのアップグレードの概要

Cisco UCS ドメインのエンドポイントのファームウェアをアップグレードする前に、次のガイドラインを考慮してください。

Cisco UCS Director リリース 5.4 では、新しいバージョンの Java および CentOS オペレーティングシステムを使用します。このため、リリース 5.4 へのアップグレード手順は以前のアップグレードとは異なります。

以前のリリースでは、パッチやソフトウェアおよびデータベースのスキーマがアップグレードされていたため、既存の Cisco UCS Director アプライアンスに新しいリリースを適用していました。Cisco UCS Director リリース 5.4 の場合は、新しい VM を作成し、ソフトウェアを導入してから、データベースとその他のコンフィギュレーション ファイルをリリース 5.3 VM からリリース 5.4 VM へ移行します。Cisco UCS Director および Cisco UCS Director Baremetal Agent の他に次をアップグレードするため、このプロセスが必要になります。

- CentOS バージョン 5.4 からバージョン 6.6 へ
- Java バージョン 1.6 からバージョン 1.8 へ



(注) Cisco UCS Director リリース 5.4 には 12 GB のメモリ容量が必要です。

## Cisco UCS Director リリース 5.4 へのサポート対象のアップグレードパス

Cisco UCS Director リリース 5.4 (お使いの Cisco UCS Director のバージョンによる) へのアップグレードパス。

次に、Cisco UCS Director リリース 5.4 へのサポート対象のアップグレードパスを示します。



(注) リリース 5.3.1.0 以降、有効なターゲットパスのアップグレードチェックは、アプライアンスのバージョンおよびターゲットのバージョンからのアップグレードパスがサポートされている場合にのみ、アップグレードします。

#### リリース 5.3.x.x プラットフォームのアップグレードパス

- リリース 5.3.0.0 からリリース 5.4 へ
- リリース 5.3.0.1 からリリース 5.4 へ
- リリース 5.3.0.2 からリリース 5.4 へ
- リリース 5.3.1.0 からリリース 5.4 へ
- リリース 5.3.1.1 からリリース 5.4 へ
- リリース 5.3.1.2 からリリース 5.4 へ
- リリース 5.3.2.0 からリリース 5.4 へ

#### リリース 5.2.x.x プラットフォームのアップグレードパス

- リリース 5.2.0.0 からは、最初に Cisco UCS Director リリース 5.3.0.x、5.3.1.x、または 5.3.2.x へアップグレードする必要があります。
- リリース 5.2.0.1 からは、最初に Cisco UCS Director リリース 5.3.0.x、5.3.1.x、または 5.3.2.x へアップグレードする必要があります。
- リリース 5.2.0.2 からは、最初に Cisco UCS Director リリース 5.3.0.x、5.3.1.x、または 5.3.2.x へアップグレードする必要があります。
- リリース 5.2.0.2A からは、最初に Cisco UCS Director リリース 5.3.0.1 以降、5.3.1.x、または 5.3.2.x へアップグレードする必要があります。
- リリース 5.2.0.3 からは、最初に Cisco UCS Director リリース 5.3.1.2 または 5.3.2.x へアップグレードする必要があります。

#### リリース 5.1.x.x のアップグレードパス

リリース 5.1.x.x からは、最初に Cisco UCS Director リリース 5.3.x.x へアップグレードする必要があります。

#### リリース 5.0 およびそれ以前のリリースのアップグレードパス

リリース 5.0 x.x およびそれ以前のリリースからは、最初に Cisco UCS Director リリース 5.1.x.x へアップグレードした後に Cisco UCS Director リリース 5.3.x.x へアップグレードする必要があります。

Cisco UCS Director の以前のリリースへのアップグレード方法については、[該当するリリースのインストールとアップグレードのマニュアル](#)を参照してください。たとえば、リリース 3.x からア

アップグレードする必要がある場合は、最初にリリース 4.0 にアップグレードしてから、そのアップグレードパスに従う必要があります。

## Baremetal Agent リリース 5.4 のサポート対象のアップグレードパス

Cisco UCS Director Baremetal Agent (Baremetal Agent) リリース 5.4 へのアップグレードパスは、ご使用中の Baremetal Agent のバージョンによって異なります。

たとえば、リリース 4.x からアップグレードする必要がある場合は、最初にリリース 5.0 にアップグレードしてから、そのアップグレードパスに従う必要があります。Baremetal Agent にリリース 5.1 はありません。Cisco UCS Director リリース 5.1 からのアップグレードの場合は、システムに Baremetal Agent リリース 5.0 が含まれています。

### Baremetal Agent リリース 5.3 のアップグレードパス

リリース 5.3 からリリース 5.4 に直接アップグレードできます。

### Baremetal Agent リリース 5.2 のアップグレードパス

リリース 5.2 からリリース 5.4 に直接アップグレードできます。

### Baremetal Agent リリース 5.0 のアップグレードパス

リリース 5.0 からリリース 5.4 に直接アップグレードできます。

### Baremetal Agent リリース 4.1 およびそれ以前のリリースのアップグレードパス

リリース 4.1 以前のリリースからは、最初に Baremetal Agent リリース 5.0 にアップグレードした後に Baremetal Agent リリース 5.4 にアップグレードする必要があります。

Baremetal Agent の以前のリリースからのアップグレード方法の詳細については、[該当するリリースのインストールとアップグレードのマニュアル](#)を参照してください。

## PowerShell Agent のリリース 5.4 のアップグレード

Cisco UCS Director リリース 5.4 にアップグレードした後で、PowerShell Agent を再インストールする必要があります。リリース 5.4 にアップグレードされたシステムから PowerShell Agent の最新バージョンをダウンロードできます。

PowerShell Agent のアップグレード方法については、『[Cisco UCS Director Upgrade Guide](#)』を参照してください。



(注) PowerShell Agent を再インストールしないと、リリース 5.4 にアップグレードした後に既存の PowerShell 実行タスクが失敗します。

## 新機能および変更された機能

ここでは、このリリースの重要な新機能および変更された機能の概要について説明します。ここでは、このリリースに含まれる機能拡張のすべては網羅しません。



(注) このリリースの Cisco UCS Director でサポートされる物理および仮想デバイスならびにソフトウェアについては、[このリリースの互換性マトリクス](#)を参照してください。

### リリース 5.4 の新機能および変更された機能

#### アプリケーション コンテナの機能拡張

Cisco UCS Director のアプリケーション コンテナに加えられた機能拡張には、次のサポートが含まれています。

- ベア メタル サーバのディスクの削除 : APIC コンテナには、指定されたリソース制限内で物理サーバの論理ユニット番号 (LUN) 操作を削除する機能があります。
- VM の追加 : [VM をコンテナに追加 (Add VMs to Container) ] または [VM を APIC コンテナに追加 (Add VMs to APIC Container) ] のワークフローでは VM をコンテナに追加できません。VM を追加するには、[VM の追加 (Add VMs) ] をクリックするか、API を使用してください。
- サービス チェーニング : vDC の [ネットワーク管理の有効化 (Enable Network Management) ] が無効になっている場合は、特定の設定がデフォルトで実行されます。

詳細については、『[Cisco UCS Director Application Container Guide, Release 5.4](#)』を参照してください。

#### Cisco IMC Supervisor のサポート

C シリーズのスタンドアロン サーバの場合は、Cisco IMC Supervisor 1.1 の機能にネイティブのサポートが使用できるようになりました。

詳細については、『[Cisco UCS Director Management Guide for Rack Servers, Release 5.4](#)』および『[Cisco UCS Director Compatibility Matrix, Release 5.4](#)』を参照してください。

#### レガシー Cisco IMC アカウントのサポートの廃止

Cisco UCS Director リリース 5.4 では、新規インストールでも、アップグレード後でも、Cisco Rack Server (CIMC) のアカウントをサポートしなくなりました。既存の Cisco Rack Server (CIMC) のアカウントがある場合は、それらのアカウントを削除し、ラックアカウントとして追加する必要があります。

詳細については、『[Cisco UCS Director Management Guide for Rack Servers, Release 5.4](#)』を参照してください。

### Cisco UCS Manager サポートの機能拡張

Cisco UCS Director に Cisco UCS Manager リリース 2.2(6\*) との互換性が備わりました。

詳細については、『[Cisco UCS Director Compatibility Matrix, Release 5.4](#)』を参照してください。

### Cisco UCS Central サポートの機能拡張

このリリースでは、次の変更が Cisco UCS Central サポートに追加されました。

- Cisco UCS Central リリース 1.3(1\*) のサポート
- オペレーティング システム導入の機能拡張
- タスク ライブラリの機能拡張

詳細については、『[Cisco UCS Director Compatibility Matrix, Release 5.4](#)』および Cisco UCS Director 内で利用可能なタスク ライブラリを参照してください。

### Cisco UCS Director Baremetal Agent による Windows オペレーティング システムの機能拡張

Windows オペレーティング システムの導入が次のように変更されました。

- 単一 Baremetal Agent で単一の Windows オペレーティング システム フレーバーを導入する機能
- 複数の Baremetal Agent で複数の Windows フレーバーを同時に導入する機能

詳細については、『[Cisco UCS Director Baremetal Agent Installation and Configuration Guide, Release 5.4](#)』を参照してください。

### APIC 管理サポートの機能拡張

このリリースでは、APIC 管理が次のように変更されました。

- APIC レポート：ファブリックで設定されたスイッチ インターフェイスを表示する機能の提供
- プライベート ネットワーク：テナント用に作成されたプライベート ネットワークを表示し、プライベート ネットワークのスーパーネットおよびサブネットのプールを表示する機能の提供
- 使用済み契約 インターフェイス：EPG の使用済み契約 インターフェイスを表示および管理する機能の提供
- メイン サイトと ディザスタ リカバリ サイトの LUN および HLU：ディザスタ リカバリ (DR) サポートがあるテナントのフェールオーバー シナリオの処理では、同じ LUN ID と ホスト LUN (HLU) ID がプライマリ サイトとセカンダリ サイトに必要です。選択した VNX アカウントと VMware ホストの可用性に基づいて、同じ LUN ID と HLU ID がテナントのオンボーディング時にプライマリ サイトとセカンダリ サイトに予約されます。
- FlexPod ACI：テナント インフラストラクチャ設定のワークフロー、FlexPod ACI：ゲストが接続した ISCSI のテナント インフラストラクチャ有効化のワークフロー：NetApp デバイス

は ONTAP 8.3 オペレーティング システムを使用する場合、フェールオーバー グループの作成タスクを実行する前に、次のタスクが追加されていることを確認します。

- custom BroadcastDomain\_CLI
  - SSH コマンド
- 
- APIC バージョン 1.1(3\*) との互換性

詳細については、『[Cisco UCS Director APIC Management Guide, Release 5.4](#)』と『[Cisco UCS Director Compatibility Matrix, Release 5.4](#)』を参照してください。

### VMware vSphere および 仮想 SAN のサポートの機能拡張

VMware vSphere および仮想 SAN サポートの機能拡張には、次が含まれています。

- 仮想 SAN ポッドのレポート：仮想 SAN クラスタ、仮想 SAN 認定ポリシー、および仮想 SAN ポッドの関連システム タスクを表示する機能を提供します。
- ポッド レベルの仮想 SAN クラスタ管理：ベア メタル サーバ、LAN 起動ポリシー、サービス プロファイル テンプレート、および 仮想 SAN ネットワーク ポリシーをポッド レベルで定義する機能を提供します。
- 仮想 SAN ハードウェア トポロジ：仮想 SAN ハードウェア トポロジを表示する機能を提供します。
- 仮想 SAN ホストのメンテナンス モード：仮想 SAN ホストをメンテナンス モードに移行する機能を提供します。
- 仮想 SAN のサービスとしてのインフラストラクチャの管理：VM、仮想 SAN ストレージ プロファイル、仮想 SAN VDC、仮想 SAN カタログを含む仮想 SAN インフラストラクチャ リソースを管理する機能を提供します。
- 仮想 SAN ディスクおよびディスク グループの管理：仮想 SAN のディスクを表示、追加、および要求する機能を提供します。
- ESXi 6.0 ベア メタル オペレーティング システムの導入
- 仮想 SAN 6.0 のサポート

詳細については、『[Cisco UCS Director VMware vSphere Management Guide, Release 5.4](#)』と『[Cisco UCS Director Compatibility Matrix, Release 5.4](#)』を参照してください。

### NetApp サポートの機能拡張

NetApp のサポートは次のように変更されました。

- NetApp アカウントの追加：Cisco UCS Director で NetApp アカウントを追加する前に、NetApp デバイスの Transport Layer Security (TLS) オプションを有効にしておく必要があります。Cisco UCS Director では、NetApp デバイス上で TLS オプションが無効になっている場合は、NetApp アカウントを検出できません。
- ONTAP 8.3.1 C モードとの互換性



Cisco UCS Director で NetApp アカウントを追加する前に、NetApp デバイスの Transport Layer Security (TLS) オプションを有効にしておく必要があります。Cisco UCS Director では、NetApp デバイス上で TLS オプションが無効になっている場合は、NetApp アカウントを検出できません。

詳細については、『[Cisco UCS Director NetApp Management Guide, Release 5.4](#)』と『[Cisco UCS Director Compatibility Matrix, Release 5.4](#)』を参照してください。

### EMC サポートの機能拡張

EMC サポートは次のように変更されました。

- EMC VNXe のサポート
- EMC VMAX3 サポートの機能拡張

詳細については、『[Cisco UCS Director VNXe Management Guide, Release 5.4](#)』と『[Cisco UCS Director Compatibility Matrix, Release 5.4](#)』を参照してください。

### カスタム ワークフローの作成スクリプトの変更

Cloupia スクリプトプラットフォームの JDK バージョンがこのリリースで 1.6 から 1.8 にアップグレードされました。その結果、スクリプト内の特定の関数およびクラスのシンタックスと使用方法が変更されました。

詳細については、『[Cisco UCS Director Custom Task Getting Started Guide, Release 5.4](#)』を参照してください。

### ワークフローの実行に関する機能拡張

ワークフローの実行の機能拡張には、次のサポートが含まれています。

- カスタム ワークフローのコンポーネントに関する詳細情報の表示。
- ワーク フロー編集時のワークフローの名前の変更。
- 複数のワークフローの同時削除。
- ドラッグ アンド ドロップを使用したワーク フローの順序の変更。

詳細については、『[Cisco UCS Director Orchestration Guide, Release 5.4](#)』を参照してください。

### Cisco UCS Director のその他の機能拡張

Cisco UCS Director のその他の機能拡張には、次が含まれています。

- 重複する IP サブネットプールのサポート。
- ユーザの無効化および有効化。
- アカウントの作成中のユーザ アカウントの有効期限の設定。
- LDAP アカウントの追加中のグループ フィルタおよびユーザ フィルタの追加。
- 複数の LDAP グループにユーザが参加可能。

- 大規模な AD/LDAP 環境との統合における応答時間の改善。
- VDC にマッピングできる VM 管理ポリシーの概要。
- システム レベルでアプリケーション カテゴリを作成するためのサポート。
- VM のまたはサイズ変更、あるいは VM ディスクの作成などのアクション実行時に表示される新しいコスト計算情報。
- ユーザ、グループ、VDC の名前内の特殊文字のサポート。
- ユーザロールおよびエンドユーザのセルフサービスポリシーで定義された VM 管理タスク。

詳細については、『[Cisco UCS Director Administration Guide, Release 5.4](#)』を参照してください。

### Cisco UCS Director での Cisco UCS Director Express for Big Data のサポート

適切なライセンスを使用することにより、Cisco UCS Director 内で Cisco UCS Director Express for Big Data の機能を有効にできるようになりました。

詳細については、『[Release Notes for Cisco UCS Director Express for Big Data, Release 2.0](#)』およびその他の Cisco UCS Director Express for Big Data リリース 2.0 のマニュアルを参照してください。

### ローカリゼーションの機能拡張

Cisco UCS Director でフランス言を使用できるようになりました。

## このリリースの新規配布マニュアル

Cisco UCS Director リリース 5.4 で使用できる新しいマニュアルは次のとおりです。

- 『*Cisco UCS Director Upgrade Guide*』：すべてのコンポーネントについて、リリース 5.4 にアップグレードする方法について説明します。
- 『*Cisco UCS Director API Integration and Customization Guide*』：Cisco UCS Director で使用できる API の統合およびカスタマイズのオプションの概要を示します。
- 『*Cisco UCS Director Multi-Node Installation and Configuration Guide*』：マルチノードシステムのインストール方法および設定方法について説明します。
- 『*Cisco UCS Director Getting Started REST API*』：このガイドに移行された『*Cisco UCS Director REST API Developer Guide*』の情報が記載されています。
- 『*Cisco UCS Director PowerShell API Getting Started Guide*』：このガイドに移行された『*Cisco UCS Director PowerShell API User Guide*』の情報が記載されています。

## ワークフロー関連の変更

### リリース 5.4 でのワークフロー タスクの変更

以下に、このリリースでのワークフロー タスクの変更と、その変更による既存のワークフローへの影響（該当する場合）を説明します。

ワークフロー タスク	変更内容	問題の回避策
EPG への静的パスの追加	このリリースへのアップグレード後にこのワークフロー タスクを実行すると、入力値が変更されているため、バインディング エラー メッセージが表示されます。  このワークフロー タスクの場合は、ユーザ入力タイプが <b>UpdateVMM Domain</b> および <b>Static path</b> から <b>EPG</b> に変更されました。	タスクを開き、入力フィールドを変更します。
VSAN クラスタを展開します。	このリリースへのアップグレード後にこのワークフロー タスクを実行すると、Dvswitch の必須エントリがないことを示すエラー メッセージが表示されます。	タスクを開き、入力フィールドを変更します。
SD 上での仮想 SAN PXE ブート	このリリースへアップグレードすると、以前のリリースの [ブート ポリシー (Boot Policy) ] フィールドに提供される入力は保持されません。	タスクを開き、入力フィールドを変更します。

### MSP でのテナント オンボーディングの既知の動作 : VNX ワークフロー

Cisco UCS Director でサービス プロバイダー機能を有効にしていない場合は、MSP - VNX ワークフローによるテナント オンボーディングは検証失敗状態になります。

サービス プロバイダー機能を有効にするには、[管理 (Administration) ]>[システム (System) ]>[サービスプロバイダー機能 (Service Provider Feature) ] を選択し、[サービスプロバイダー機能を有効にする (システムの再起動が必要) (Enable Service Provider Feature (Requires System Restart) ]

チェックボックスをオンにします。サービスを再起動し、MSP - VNX ワークフローによるテナント オンボーディングを検証します。

## 未解決のバグおよび解決されたバグ

このリリースで未解決のバグおよび解決されたバグには、[Cisco Bug Search Tool](#) を使用してアクセスできます。この Web ベース ツールから、この製品やその他のシスコ ハードウェアおよびソフトウェア製品でのバグと脆弱性に関する情報を保守する Cisco バグ追跡システムにアクセスできます。



(注) Cisco Bug Search Tool にログインしてこのツールを使用するには、Cisco.com アカウントが必要です。アカウントがない場合は、[アカウントを登録](#)できます。

Cisco Bug Search Tool の詳細については、[Bug Search Tool Help & FAQ](#) を参照してください。

### このリリースで未解決のバグ

このリリースで未解決のすべてのバグは、[Cisco Bug Search Tool](#) で次の検索を行うことで確認できます。

検索結果には、未解決のバグの回避策（存在する場合）も含まれます。

#### リリース 5.4 で未解決のバグ

リリース 5.4 で未解決のすべてのバグに関する詳細情報は、[リリース 5.4 の未解決バグを検索](#)することで確認できます。この検索では、次のパラメータを使用します。

フィールド	パラメータ
[製品 (Product) ] ドロップダウンリスト	[シリーズ/モデル (Series/Model) ] を選択し、Cisco UCS Director 5.4 を入力します。
[リリース (Releases) ] ドロップダウンリスト	[これらのリリースにおける影響または修正 (Affecting or Fixed in these Releases) ] を選択し、5.4(0.0) を入力します。
フィルタ	[ステータス (Status) ] ドロップダウンリストから [開く (Open) ] を選択します。

### このリリースで解決されたバグ

このリリースで解決されたすべてのバグは、[Cisco Bug Search Tool](#) で次の検索を行うことで確認できます。

## リリース 5.4 で解決されたバグ

リリース 5.4 で解決されたバグに関する詳細情報は、[リリース 5.4 の修正されたバグを検索すること](#)で確認できます。

フィールド	パラメータ
[製品 (Product) ] ドロップダウンリスト	[シリーズ/モデル (Series/Model) ] を選択し、Cisco UCS Director 5.4 を入力します。
[リリース (Releases) ] ドロップダウンリスト	[これらのリリースにおける影響または修正 (Affecting or Fixed in these Releases) ] を選択し、5.4(0.0) を入力します。
フィルタ	[ステータス (Status) ] ドロップダウンリストから [修正 (Fixed) ] を選択します。

## 関連資料

これらのリリース ノートに加え、Cisco.com の次の場所で、Cisco UCS Director リリース 5.4 に関する資料を参照できます。

- [『Cisco UCS Director Documentation Roadmap』](#)
- [Cisco UCS Director 製品概要ページ](#)
- [Cisco DevNet の Cisco UCS Director](#)

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。このドキュメントは、<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> から入手できます。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』では、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧を、RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用して、コンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。



---

© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.